

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

2012年9月1日提出

**派遣生の基本情報**

友井太郎

欧米系文化研究専攻西洋古典学専門分野修士課程2年

個人派遣

**研究課題名**

ラテン語恋愛エレゲイア詩の研究

**派遣先での活動**

**(1) 派遣先の基本情報**

イギリス・オクスフォード大学・クライストチャーチ

コンタクトした主な研究者名

Prof. Robert Parker, Prof. Peter Parsons, Prof. Stephen Harrison, Dr. Gunther  
Martin

**(2) 派遣期間**

2012年8月3日出発～2012年8月20日帰国、総日数18日

**主な研究成果**

**(1) 当初の計画の概要**

葛西康德教授主催「オクスフォード・サマースクール」(学部学生と合同)に参加し、①8月6,7日の慶應義塾大学教授納富信留先生主催国際シンポジウム(テーマ“Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition”)出席、②オクスフォード大学およびロンドンの図書館並びに博物館にて文献資料調査、③オクスフォード大学古典学部教授のレクチャー受講等を行う。

**(2) 実際に達成された成果**

①出席したシンポジウムは日本人研究者が発表し、オクスフォードの研究者がそれに応答する形式であった(使用言語は英語)。日本人研究者が欧米圏において現地の研究者と現地語を用いて討議する中にいたことは、得がたい経験となった。②オクスフォード大学のボードリアン図書館ならびにサックラー図書館を利用した。主な研究対象であるプロペルティウスに関しては、Broekhuizen(1702), Barth(1777), Burmannus(1780)等の古い刊本を実際に閲覧することができた。また、オクスフォードのアシュモリアン博物館、ロンドン

の大英博物館で古代ギリシア、ローマ関連の多くの展示物を見ることができた。③Prof. Robert Parker, Prof. Peter Parsons, Prof. Stephen Harrison, Dr. Gunther Martin の各氏によるレクチャーを受講した。内容はオクスフォードにおける古典教育、パピルス学、歴史的な視点を盛り込んだ文学解釈など。ラテン文学を専門とする Harrison 教授からは、この分野において（も）国境をこえた共同研究が進んでいることをご教示頂いた。

### **(3) 今後の研究展望**

短期的には、修士論文に今回の派遣で得た知見を用いたいと考えている。修士論文ではプロペルティウスの詩について文献学的な基礎のもとで歴史学などの視点も盛り込んだ新たな解釈を加えることを意図しているが、図書館における文献の閲覧や各種レクチャーの受講等がその助けとなるだろう。また長期的には、海外を視野に入れた外国語での発表、討議、さらには国境をこえた共同研究が可能となるように、今回の経験をいかしていこうと思う。